

「一緒に嬉しい 違って楽しい」

私は、読んだり書いたり苦手です。小学校の時には体調をくずして、学校に行きにくくなったこともありました。漢字のテストで間違えた10個を書き直すのに、宿題が深夜までかかっていました。その時、保健室ですごすことが多かったのですが、友達は、優しく声をかけてくれました。それなのに、「私は、なんで来たん？」みたいに心のなかで思っていました。でも今思えば、声をかけてくれたことがありがたいと思います。

5年生のころ、読んだり書いたりすることが苦手な私の脳の使い方のクセに、LDと言う名前がつかれました。病院に行く前の日、私は「障がい者になるん？」と聞きました。母は「ちょっとちゃうねんな～。読むのが難しいと感じるのは、脳の使い方のクセ。走りが早い遅いと一緒。今は、先生や友達が助けてくれるでしょ？ でももし、あなたがそんなんも読めへんの？ アホちゃう？ とか理解されないことに出会うことが障がい。」と言いました。

今私は、自分の脳の使い方のクセと理解してくれる友達や先生に囲まれています。とてもありがたいです。自分も誰かに寄り添ってつながっていける人になりたいです。